



徐々に仕事の質が変わってきたかな、と久しぶりに仕事から解放された新幹線の中で明るく流れてゆく東北の青い山々を見ながら考えていた。私は何をやってきたのかと。

初めて社会に出て、虎ノ門の弁護士の先生の所にお世話になって社会勉強をさせていただいて2年、設計会社に勤めて20年、自分で会社を始めて10年。会社も3つほどつぶれたがただひたすら走ってきた。年間15橋ほどの橋の設計に携わり、デザインをし、古い橋やトンネルや下水などの調査をし、現場で橋を架け、あらゆるもののデザインをし、児童公園をつくり、街を考え直し、駅前のデザインをし、墓地をつ

くり、道の駅を考え、パンフレットを作り、チラシを作り、名刺やHPを作り、本を作り、地図を作り、ルポを書き、荒れた川を自然に戻す方法を考え、製本や、落款の作り方を教え、看板を作り、・・・食うためには出来ることは何でもやってきた。

すべての作業がハードだった。何日もほとんど眠らずに製図版の前に立ち、同僚は三日目に鉛筆を握ったまま倒れて救急車で運ばれ、酸欠に脅えながら泥だらけになって海底トンネルの下水溝の中を歩き、フェンスをよじ登り、30mの橋脚に登り、走っている鉄道橋の中を這い、もちろんたくさん遊んでもきたが、常に全力で働いてきた。

しかしこのごろどうも息切れがする。想像力は全く衰えていないが、単純作業をこなし続ける気力が前ほどなくなってきた。もう・・・、いいのではないか、たくさん作ったではないか。東北新幹線、イラクの石油積み出し施設(もっともこれはアメリカのミサイルでやられたが。)高速道路、モノレールの駅、HSST、本四架橋、ベイブリッジ、バングラディッシュの農村に人力だけでかける橋、波を消す消波提、東京駅から皇居までのデザイン設計、大手門を始め皇居回りのデザイン設計、たくさんの橋梁群、たくさんの公園たち、

もういいのではないか、そろそろ私個人のスケールで小さなもの作り位にしてもいいのではないか。そう思っても借金ばかりでは動きもとれないが、そろそろルートを変えようか。

ジョンミュアアの「はじめてのシェラの夏」を読んでいた。あそこまで出来ないかもしれないが、今、アメリカの広さにあこがれている。もう一度生き方のスタイルを再構築してみようか。友人にそう言ったら「作ってしまった子供と、作らせてしまった女房にまだもう少し責任がある。」と明確な事を言っていた。確かにそうだが、自分としてヒトとしてきっちり生きる責任もある。自分がしっかり生きられなくては何も繋がらない。そう信じる。

夏は教室はさぼります。9月はきっちりと製本をする予定です。モンゴルのものをまとめなくては。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com